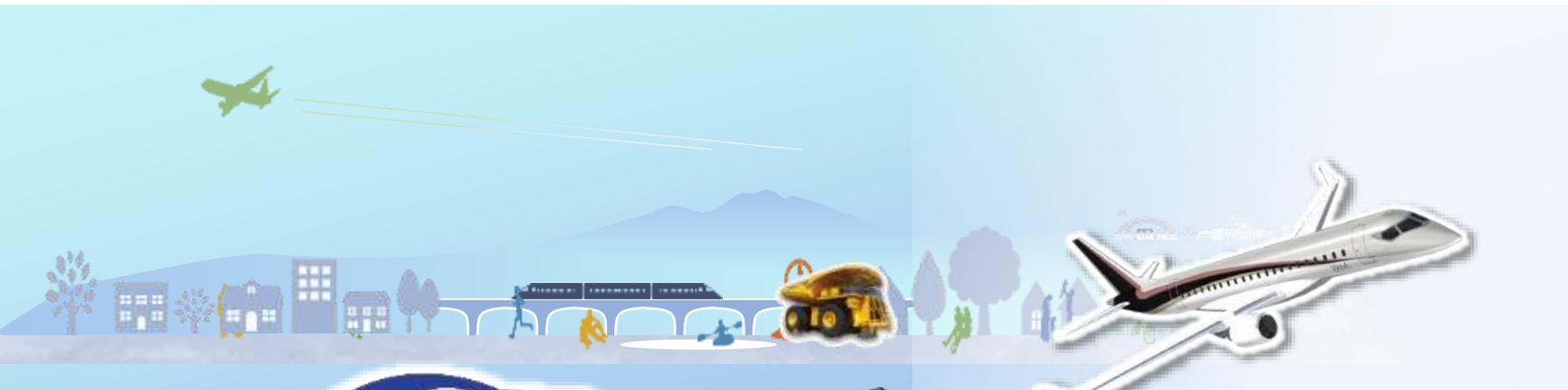


令和5年度第1回 いしかわPPP/PFI地域プラットフォームセミナー

市民と共に創る未来型図書館



2024年3月16日
北陸新幹線小松駅開業

石川県 小松市

速いは近い
つながる小松



小松市の概要

人口 約10万6千人

面積 371.05 平方キロメートル

産業

今に息づくものづくりの精神
世界的な建設機械メーカーが生まれ、
その協力企業等によって機械産業を
中心とした産業クラスターを形成



大型ダンプ 930E



建設機械メーカー「コマツ」



バス製造メーカー「ジェイ・バス」



県内市シェア1位のトマト

山と海に囲まれた豊かな自然環境
太古のままの姿を残す木場潟から
望む雄大な白山の眺望は絶景

木場潟



日用苔の里

自然

江戸時代から脈々と
受け継がれてきた「曳山子供歌舞伎」
歌舞伎「勧進帳」の舞台となった「安宅の関」
2300年にわたり受け継がれる「石の文化」

文化



曳山子供歌舞伎



歌舞伎十八番の内 勧進帳

石の文化(日本遺産)



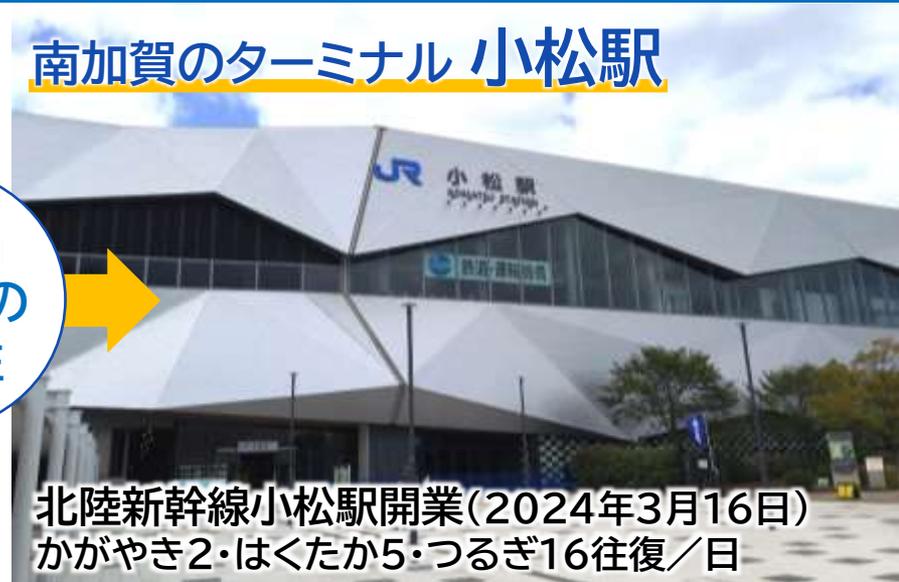


「日本海側の拠点都市」を目指して

北陸のターミナル 小松空港



南加賀のターミナル 小松駅



4.4km
本州一の
近接性

国内4路線・国際4路線
東京・札幌・福岡・那覇・ソウル・上海・台北・香港

北陸新幹線小松駅開業(2024年3月16日)
かがやき2・はくたか5・つるぎ16往復/日

二大都市機能を活かしたまちづくりを加速。大いなる飛躍へ。

臨空ゾーン 安宅新産業団地



自動運転バス レール&フライトを拡大



2024年3月 Lv.2運行開始
乗車定員25名 最高速度40km/h

2025年度以降 自動運転Lv.4へ

新産業の創造・発信拠点へ
3社の進出決定(北國FHDアリーナ構想)



都市機能の集積

- 北陸新幹線開業を控える小松駅を中心とした半径1kmの都市機能誘導区域に機能が集積
- 未来型図書館の立地場所となる芦城公園や小松運動公園のエリアが近接





JR小松駅周辺

新幹線駅の玄関口にふさわしい都市機能の集積が進むエリア

- 南加賀地域の中心拠点として、商業・業務、行政、交通などの都市機能が集積
- 新幹線開業により、賑わいと交流機能の集積が一層進むことが想定





JR小松駅周辺



フードエリア



スーベニア&カフェエリア



コワーキングエリア



ギャラリー&イベントエリア

観光交流センター「Komatsu ^{ナイン} 丸」

(2023年9月18日グランドオープン)

出逢いと交流が生まれる拠点

- フリースペースを備えたフードエリア
- 観光案内所併設のお土産ショップ
- 小松オリジナルメニューのカフェ
- 利用者同士が交流できるコワーキングスペース
- 広域の文化交流の展示
- イベントなどに利用できるレンタルスペース



小松駅東地区複合ビル (2023年9月着工 ▶ 2025年夏竣工予定)

地域一体となったビル活用

- 北陸電力及び関連会社のオフィス
- 南加賀最大規模の多目的ホール
- 公立小松大学、小松市貸オフィス
- ホテル、テナント
- 敷地面積:約5,280㎡(市有地を定期借地) 延床面積:約17,200㎡
- 駅周辺施設と連携したコンベンション誘致など、持続的な賑わいを創出



小松運動公園周辺

スポーツ・医療・福祉等の交流・健康機能が集積するエリア

- 総合運動公園や病院、大学キャンパスなど南加賀地域の中心的な拠点施設が集積
- 周辺では土地区画整理事業など新たな土地利用も進行中





小松運動公園周辺



小松運動公園

市民やアスリートが集うスポーツのメッカ

- 多種多様なスポーツ施設
(体育館、野球場、陸上競技場、テニスコート、相撲場、屋外幼児プール)
- 年間を通じてスポーツ大会や各種イベントを開催
- 周辺には、ちびっこ広場を整備



小松市民病院

地域医療を支える南加賀地域の基幹病院

- 南加賀救急医療センター
- 将来を見据えた建て替えを構想中



公立小松大学 末広キャンパス

保健・医療・福祉を支える人材を育成

- 小松市民病院に隣接
- 講義室、研究室、実習室
- 一般利用も可能な食堂や図書館





芦城公園周辺

未来型図書館の立地が決定し、発展が期待されるエリア

- 生涯学習や文化振興施設が集積
- 公園周辺には、市役所等の行政施設、幼稚園・小学校・高等学校などの教育施設が立地





芦城公園周辺



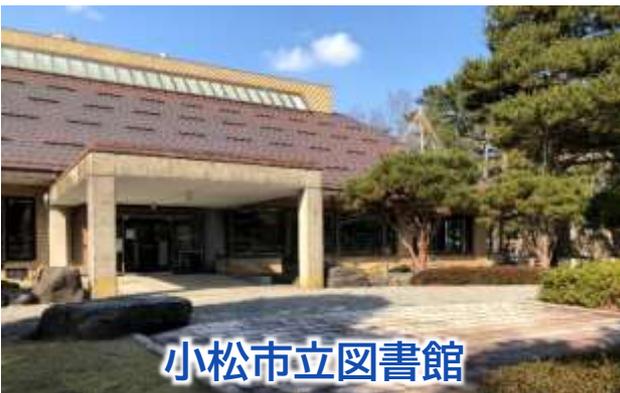
芦城公園

芦城公園

市民の憩いの場となるセントラルパーク

- 旧小松城三の丸跡に開設された都市公園
- 春の桜や秋の紅葉など四季折々の風情を楽しむことができる
- 公園の区域面積49,000㎡
(国所有40,400㎡・小松市所有8,600㎡)
- 第二種住居地域(建蔽率60%・容積率200%)

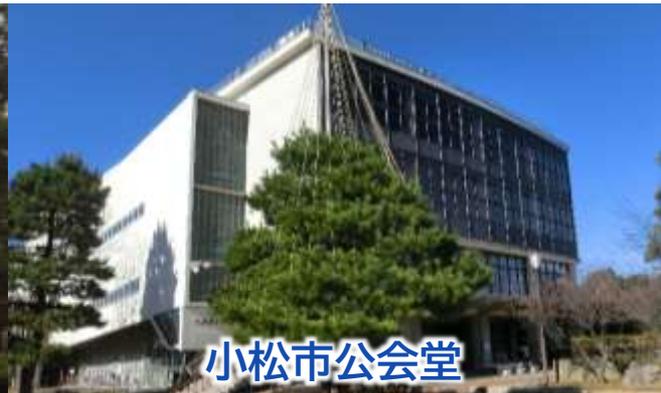
芦城公園周辺の文教施設 市民の学びと活動の拠点



小松市立図書館



小松市立博物館



小松市公会堂



小松市立本陣記念美術館



茶室「仙叟屋敷ならびに玄庵」



小松市立宮本三郎美術館



小松市立空とこども絵本館



絵本館ホール



未来型図書館の取組み(令和3年度)

「市民と共に進める、次世代都市」づくりを体現するモデルとして プロジェクトスタート

未来型図書館のあり方の調査研究 — 市民と共に考えニーズを把握 —



各種団体との意見交換会



専門家による講演会



子どもたちからの絵画募集(約250点応募)

市民アンケート(回答約1,500人)
市民ワークショップ等も実施

調査研究報告書作成





未来型図書館の取組み(令和4年度)

基本構想の策定(令和5年3月策定) — 市民と共にビジョン・基本方針を具体化 —

☑ 基本構想策定委員会 (有識者等8名)

- ▶ 専門的立場や幅広い視点から議論(全5回開催)
 - ▶ 未来型図書館のビジョンや基本方針の具体化
 - ▶ 立地候補エリアの意見集約
- 『**芦城公園周辺エリア**』に決定



☑ 市民ワークショップ (5回・延べ250名参加)

- ▶ 幅広い年代・職種の市民が参加(幼児～シニア層)
- ▶ まち歩きや地域資源マップづくりでの対話を通して機能やサービスを検討
- ▶ **ビジョン・コンセプトとして言語化**
- ▶ **共創の機運を醸成**



公立小松大学の学生も参画

☑ 開館を見据えて人材育成講座もスタート

- ▶ 「子ども司書養成講座」は18名が修了
- ▶ 「図書館エディター養成講座」は22名が修了
- ▶ 両講座とも講座終了後にクラブを結成し活動中



図書館エディター養成講座

子ども司書養成講座



未来型図書館の取組み(令和4年度)



将来あるべき姿を描いたもの。大切にする価値観。

→未来型図書館ができることで、まちや暮らしで実現させたいあり方

こまつを編む。

こまつを巡らす。



—まちの「情報」・まちの「つながり」・まちの「とき」—

編む

まちの中にある多様な資源を結び付け、価値を生み出しながら、小松の人々が自らの手で、小松というまちを編み上げていく。

巡らす

人・文化や歴史・情報・活動・経済等、様々な要素が地域において将来にわたって循環し、連鎖し続け、生き生きとしたよりよいまちのかたちや暮らしを持続的につくっていく。

情報

多様な形態、種類、内容の情報を、その垣根を超えてつなぎ、新たな価値を生み出していく。

つながり

多様な人、地域、文化など個々の特徴を活かしながら関係性のつながりをつくり、動かしていく。

とき

まちの歴史のなかにある資源（ヒト・モノ・コト）を掘り起こし、未来へつないでいく。



未来型図書館の取組み(令和4年度)

コンセプト

ビジョンを実現する具体的構想「何を提供するか」→ 施設が担っていくこと

持ちより共有し、出会う場
(こまつコモンズ)

人々が、得意なことや悩み等、様々なものを持ち寄り共有する場です。誰でも分け隔てなくそこに居ることができ、人が集まり出会うこと、そしてその人たちがやりたいことを支えていく場としての役割を持ちます。

ともに作り、育む場
(こまつキャンパス)

多様な人が関わり合いながら作り、人やまちを育てていく場所です。ともに学び、ともにまちの未来を描いていく場としての役割を持ちます。

共に創る

人の営みや情報の核となる拠点
(こまつベース)

情報が垣根を超えてつながり、集約された拠点となります。
地域資源(ヒト・モノ・コト・場所)をむすびつけ、
編集して活かしていくまちの核としての役割を持ちます。



未来型図書館の取組み(令和4年度)

未来型図書館に想定される主な機能

人の営みや情報の核となる拠点
(こまつベース)

知の集積機能
図書館等



地域の歴史・文化の
集積・編集機能
博物館
ミュージアム等



発信・表現機能
ホール・ギャラリー等



“個”の活動機能・居場所
学習スペース等



持ち寄り共有し、出会う場
(こまつコモンズ)

体験の共有・交流機能
多目的室
カフェ等



知・文化の共有機能
多文化交流スペース
貸し本棚等



施設連携機能
文化施設
学校等



共創機能
市民協働プロジェクト等

ともに作り、育む場所
(こまつキャンパス)

創造機能
工作作業スペース
スタジオ等



子育て支援機能
屋内あそび場
預かりルーム等



活動支援機能
市民活動サポート
ビジネス支援等



※想定される機能・具体例は複数のコンセプトに位置付けられる場合もある





未来型図書館の取組み(令和5年度)

未来型図書館等複合施設官民連携事業調査

☑ 公共施設マネジメント事業と一体的に調査・検討

- 複合機能や官民連携手法等を調査・検討
- 基本計画策定(R6年度)に向け事業方針を作成



集約再編

- ▶ 具体の立地場所
- ▶ 施設の集約・再編(図書館・博物館・公会堂等)
- ▶ ビジョン・コンセプトを実現する機能
- ▶ 公園との一体的な整備

官民連携

- ▶ 事業者との対話を通じた参入意欲の把握
- ▶ 民間収益事業の可能性
- ▶ 官民連携の事業手法

アクセス

- ▶ 駐車場のあり方

回遊性

- ▶ 周辺文化施設との連携
- ▶ 都市機能誘導区域内の回遊性創出

共に創る

- ▶ 対話と活動のプラットフォーム「こまつりビングラボ」形成

国土交通省「先導的官民連携支援事業」に採択

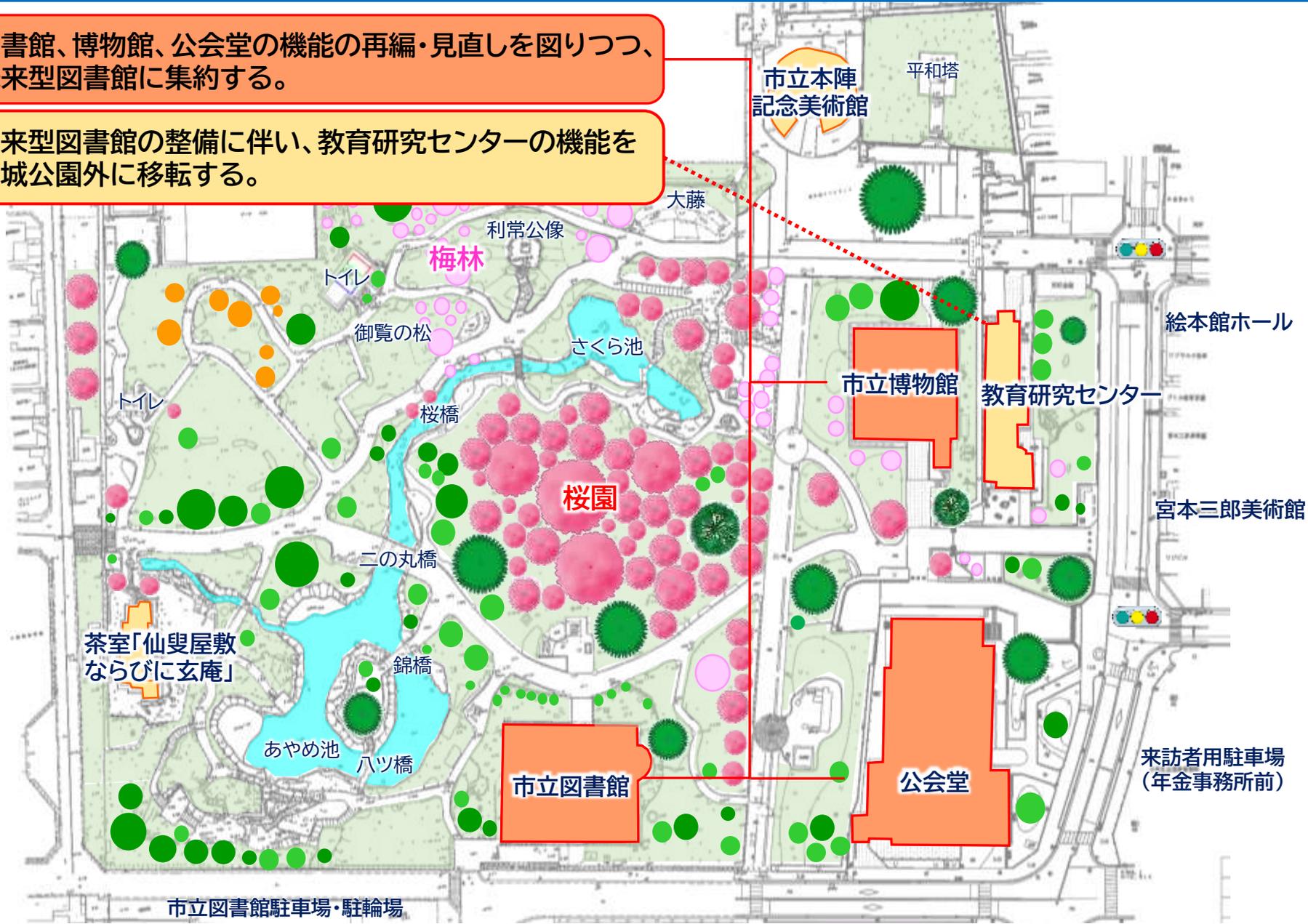


- ・複数の公共施設と都市公園とを一体的に再整備し、複合的な事業手法により都市機能向上を図る点
- ・プラットフォームを形成しながら市民との対話により検討するプロセスに先導性がある



公共施設の集約・再編(基本的な考え方)

- ① 図書館、博物館、公会堂の機能の再編・見直しを図りつつ、未来型図書館に集約する。
- ② 未来型図書館の整備に伴い、教育研究センターの機能を芦城公園外に移転する。





公共施設の集約・再編(基本的な考え方)

① 図書館、博物館、公会堂の機能の再編・見直しを図りつつ、未来型図書館に集約する。

- 未来型図書館は、多面的な機能を有する複合施設として機能を集約し利便性を向上。
- 図書館・博物館・公会堂の機能は、市内の公共施設との機能再編や必要性を踏まえた機能の見直しを図る。



小松市立図書館

昭和56年開館(41年経過)
 建築面積1,158㎡ 延床面積1,840㎡
 書架、視聴覚室、親子読書室、郷土作家コーナー

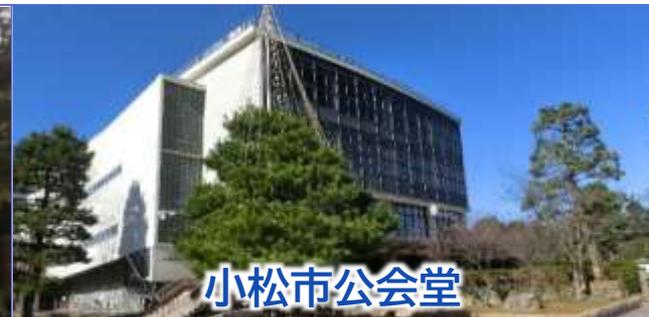
- 開架・閉架書庫スペース面から蔵書数は類似都市と比較しても少ない。
- 閲覧スペースや様々な活動に対応できるスペースも不足。
- 既存機能の拡大の方向で検討。



小松市立博物館

昭和45年開館(52年経過)
 建築面積868㎡ 延床面積2,129㎡
 小松城・石の文化等の資料展示、市民ギャラリー

- 約5万点超のコレクションは、市内3ヶ所に分散し収蔵中。
- 未来型図書館での展示・収蔵は、既存文化施設への機能再編も踏まえ検討。
- 市民ギャラリー機能は、利用頻度が高く、「発信・表現」などの機能として検討。



小松市公会堂

昭和34年開館(63年経過)
 建築面積1,631㎡ 延床面積4,999㎡
 大ホール(1,078名)大会議室、会議室、茶室、和室

- 大ホール機能の確保は床面積が増大。
- 市内や近隣自治体の施設の活用、民間の施設整備計画を踏まえ、新たな大ホール機能の必要性・あり方を検討。
- 会議室機能は、利用頻度が高く、「体験の共有・交流」「活動支援」機能として検討。

② 教育研究センターの機能を芦城公園外に移転する。

- 未来型図書館に掲げる機能との親和性が低く、多面的な機能や施設規模の観点から未来型図書館への機能集約は行わず、市内の他の公共施設へ機能を移転する。

昭和51年開館(46年経過) 建築面積320㎡ 延床面積657㎡ 各種研究・研修、教育相談、ふれあい教室



小松市教育研究センター



官民対話「サウンディング調査」

未来型図書館が担う機能の具体化等に向け、民間事業者との対話を通じた実現性を把握

☑ 民間事業者向けの個別対話と提案の募集窓口を市HPに開設(7月)

- 民間ならではのユニークな発想やアイデアによる提案を随時募集。
- 未来型図書館の整備に関する概要紹介や現地の見学案内などを随時実施中

☑ 国土交通省「第1回ブロックプラットフォームサウンディング」に参加(7/27)

☑ 個別サウンディングの実施(11月15日(水))

- 本日のセミナーを通して、関心を頂いた事業者の皆さまを中心に、**個別ヒアリング**を行う場を設置
- サウンディング調査の結果公表については、12月下旬頃を予定



皆さまざまのご参加を
お待ちしております！

石川縣小松市 個別サウンディング調査
市民と共に創る未来型図書館

— 皆様のアイデアを大募集！ —

小松市個別サウンディングでは、「声城公園」周辺を立地エリアとし整備が決定した「未来型図書館等複合施設」について、周辺施設の情報や再編・見直しを呼びつつ、ポテンシャルや魅力を最大限引き出すため、事業者等との個別対話を実施します！

- ◎ 開催日時 令和5年11月15日(水) 10時～
- ◎ 開催場所 小松市公会堂(丸の内公園町32)
- ◎ お問い合わせ 未来型図書館づくり推進チーム

TEL: 0761-24-8042 Mail: mhaisata@city.komatsu.lg.jp



官民対話「サウンディング調査」

【提案いただきたい内容】

① 未来型図書館(複合施設)の整備・運営

- 導入により相乗効果が期待される **公共・民間機能**
- 官民連携による **事業手法**(整備・運営)
- 市民参画を生む **運営スタイル**や未来技術を活用した新たな **サービス**

② 芦城公園の活用

- 芦城公園の魅力と利便性を向上する **官民連携手法の活用**(Park-PFIなど)

③ 駐車場のあり方

- 来訪者の利便性確保のための **駐車場のあり方**(事業手法・採算性)

④ 回遊性の創出

- 芦城公園周辺文化施設や小松駅・小松運動公園との **回遊性向上の方策**



対話と活動のプラットフォーム「こまつリビングラボ」

【令和4年度】

- 市民ワークショップでの「対話」を通じてビジョン等を言語化し、共創の機運を醸成。

【令和5年度】

- **新たな共創の体制「こまつリビングラボ」**を構築し、幅広い課題について検討。
市民・団体・大学・企業が参画し、**実証実験を行いながら機能・サービスを具体化**。
- **「まちづくり・公共施設づくり」の進め方のルールモデル**を目指す。



コーディネーター
青山学院大学 野末 俊比古 教授

第1回：12の役割(機能)の具体化 (7/30)

利用者目線で

- 「役割×役割」(役割どうしの掛け算)による融合・連携のアイデアについてワークショップ
- 参加者：64名
子どもから大人まで幅広い年齢層、職種の方が参加



第2回：機能・サービスの具体化(体験シーン作成)(8/20)

運営者目線で

- 機能・サービスの体験シーン作成
- ワークショップに加え、機能・サービスの実証実験として、民間事業者の協力による新技術(VRなど)の体験も実施
- 参加者：59名



シリコンバレーから参加



VR体験

第3回：機能・サービスのゾーニング(9/30)

設計者目線で

- 機能・スペース・空間についてゾーニングを実施
- 第2回に続いてVR技術やAI資料探索サービスを体験
- 参加者：65名



**未来予想図
を作成**

第4回は12月
第5回は2月開催
ぜひご参加ください



令和5年度の取組み(まとめ)

12月

導入機能や具体の立地場所の方向性とりまとめ



令和6年
3月

事業方針とりまとめ

・施設規模 ・事業手法 ・駐車場整備の方針



令和6年度 基本計画策定へ

共創の体制の 確立



「未来型図書館づくり」をきっかけにスタートした「リビングラボ」

未来型図書館の中心的機能として位置づけ、
地域課題の解決や新たな価値の創出につなげます。
そして、市民が「**自分ごと**」として活動する
主体的なまちづくりを目指します。

- 未来型図書館づくりとあわせて対話の場のリーダー（ファシリテーター）となる人材を育成中（R4年度～）



みんなで
小松市を「明るく、にぎやかに！」

エリア価値の 向上



未来型図書館を核に新たな人の流れの創出へ

周辺の文化施設と連携し、
芦城公園エリアに新たな活気と交流を創出します。
小松駅や小松運動公園エリアとの回遊性により
まち全体の価値を高めていきます。

- 小松駅から1キロ圏内である好立地を活かし、市民生活の利便性を高め、移住・定住を促進
- 北陸新幹線小松駅開業効果をまち全体に

住み続けるならやっぱり小松！





ご清聴ありがとうございました

